

幼稚園界の現状

島根県

舟木哲朗

幼稚園に転じて日の浅い私が、このような題目で執筆することは、せん越でもあり、又資料も持合せていないが、依頼されたままにペンを走らせることにした。

島根県の幼稚園教育の歴史は、かなり古い方に属する。はじめて島根県に幼稚園が設置されたのは、明治十八年五月十五日で、今年で七十一年になるが、これは、倉橋惣三先生の「日本幼稚園史」によれば、全国で第十番目になっている。これが、現在の島根大学教育学部付属幼稚園で、記録によれば「島根県師範学校付属幼稚園として創立し、勸業展覧会場内に開園す。当時幼稚保育場と称し、入

庭の子弟を除いては、幼稚園教育の恩恵に浴することはできなかった。

この幼稚園は昭和三年まで続いたが、当時はまだ幼児教育への関心は一般に浅かったし県当局も財政が苦しかったので、「男子師範には付属幼稚園は不要である」という理由をつけて、これを廃止してしまった。幼稚園教育は女だけの仕事であるように考えられていた当時としては（保母という名は、もともと女だけに適用できることばだから）この理由もつかなくはないが、といって、それなら女子師範に置いてもよさそうなのだが、それはしなかった。結局これは、こじつけの理由

に過ぎず、幼児教育の何たるかを知らぬ人たちが、県費を切りつめるために、教育を犠牲にして、僅かの節減をし得たまでである。県当局のこのような処置に対して、心ある人たちによって、付属幼稚園残置の強力な運動が展開されたことが記録に残っているが、悉く失敗に終っている。いよいよ廃止されることが決定了した時、この幼稚園の同窓会である「折つる会」が、これを黙視することができず、いろいろな交渉の結果、県から土地、建物をそのまま譲り受け、私立「折つる幼稚園」として組織を改め、この幼稚園を継承経営し、かろうじて事態を拾取した。

幼稚園創立において七十一年という古い歴史を持ち、一部には献身的な先覚者もあったが、一般には、幼稚園とは、金持の、上流家庭の子どものためのものであるという觀念が強く（これは幼稚園自体にもこのような性格があったことも事実で、現在もなくはない）その普及は遅々として進まず、第二次大戦前における幼稚園数は、全県で二十に充たず（うち、松江市内三園）極めて貧弱なものであったし、施設・設備なども不十分なものだった。しかし、松江市雑賀幼稚園の如く、幼児教育

振興のために、個人の全財産を投出して設立されたものもあり、地区の婦人会や有志の努力により、金を出し合せて設立されたものもたくさんあって、数は少くとも、その熱意に於ては敬服すべきものがある。

敗戦前の全面的閉園から敗戦後の再開の混乱を経て、全県的に幼稚園が増加して来たのは、昭和二十五年以降である。殊に松江市の場合、現在では戦前の三倍強の十園になり、旧市内では、各小学校の校区に、公立又は私立の幼稚園が必ず一園あり、最近合併された新市内にも、各校区に必ず設置するよう、市教委で計画が進められている。

近年幼児教育への関心の高まったのに伴い、島根大学でも、幼児教育研究のためと、学生の実習のために、付属幼稚園が必要になり、昨年九月、折つる幼稚園を移管し、付属幼稚園とした。従つてこの幼稚園は、県立から私立へ、私立から国立へと、三回にわたつて移動しながら、七十一年の歴史を経て今日に至っているが、園舎は創立当時のもので、多分、現存する日本の幼稚園では、最古の園舎ではないかと思う。この幼稚園には、明治年間に使われた和綴じの絵本や、珍しい形

のオルガンがあり、このオルガンは、現在もお使用されている。

現在県下にある幼稚園は、国立一、公立二、十三、私立七、計三十一で、戦前の一倍半強となっているが、その普及度は他府県に比して極めて低く、教育の機会均等ということが実はかけ声ばかりで、その恩恵に浴することのできない幼児が大部分を占めているというのが現状である。

幼稚園の分布状況

県内で幼稚園教育が最も普及しているのは松江市である。現在、国立一、市立五、私立四、計十園であるが、旧市内は、各小学校の校区に一園宛あつて（八園）該当年令の幼児は、保護者にその意志があれば、全員通園できる状況にある。最近合併された新市内にも二園あり、まだ設立されていない地区では、市教委と地元住民の手によって、設立が急がれている。

次いで普及しているのは、県の東半、つまり出雲部で、全県下三十一園中、二十五園までが（松江市の十園を含む）出雲部に集中している。しかし、まだ設立されていない町村が大部分で、出雲部でさえも、その普及度は

極めて低いと言わねばならぬ。

県の西半、つまり石見部に至つては、大田市二、江津市一、浜田市三、の計六園のみで、町村で幼稚園を持つてるところは一つもなく、浜田市から西には一園もない。益田市の如く、市でも幼稚園のないところがあるといった状況である。又、隠岐島は、島前、島後共皆無である。

問題点と対策

このような状況であるから、松江市を除いては、幼稚園へ出ると言うのが、ごく限られた地区の、限られた幼児だけにとどまり、一部の幼児のための教育機関としての意味しか持っていない。又、松江市を除いては、現在のところ早急に幼稚園を開設普及させようという動きも少ない。これは、一般県民にも、行政府にも、幼児教育への認識が浅くて、その必要を痛感していないこと（勿論経費の問題もないではないが、根本原因は、必ずしも経費の問題にあるとは考えられない）と、幼稚園と保育所との目的の相違があまり知られていないこと、更に甚だしきは、幼稚園と保育所は同物異名であると誤解している向が多いことなどが、大きい原因のように考えられ

る。幼稚園を経営するより、補助のもらえる保育所の方が経営しやういという考えが当局にあって、その区別を知らずに、保育所を幼稚園と呼んでいる人もたくさんある。だから、代用幼稚園の保育所が多く、当然幼稚園に出るべき幼児を取容し、全く幼稚園と同じような保育をしている保育所もかなりある。保育所は全県下に約百七十あり、優に幼稚園の六倍近くに達する状況である。

次に、これはごく少数であるが、無認可幼稚園というのがある。これは、内容が必要なる基準に達していないために、正式に幼稚園の取扱いを受けていないが、看板だけは幼稚園を名乗っているもので、しかも町立のものである。正式の幼稚園として運営するだけの予算をとってもらえぬらしい。これは違法行為でもあり、幼児も可哀想だし、職員も、教職員としての身分が保証されず、又、何年勤めても、免許法上の勤務年数とならないので、上級免許状が取得できない。

以上のような状況で、極めて不完全な教育しか受けられない幼児が多く、これらを含めても、該当年令の幼児の約半数は、このような施設を経ずに、家庭から直接小学校へ進学

することになる。右については、早急に次のような対策が必要である。

①無認可幼稚園は、即時施設を充実し、認可を受ける必要がある。②代用幼稚園の保育所は、漸次幼稚園に組織替える必要がある。③各小学校校区に、少くとも一園は幼稚園を開設する必要がある。右のうち、①と②は、既にある施設に若干の改善を加えることによつて可能だから、経費は必ずしも多くを要しない。要は、やる気があるかないかという問題である。③は、全くの新設ならかなり経費がかかるが、若し小学校に余った教室があれば、これに若干の施設、設備を整え、必要な専任教員を置くだけでできる。松江市では、市立幼稚園の新設は③の方式が多く採られている。この場合、正式の幼稚園になるまでの準備期間は、幼稚園という看板がかかけられる。又若し必要な部屋がない時は、できるまでの間、「幼児学級」と称して、一週二―三回程度、午後、小学校の一年生が下校した後の教室を利用して保育が行われるものもある。これらは何れも幼稚園設立の準備期的なもので、とにかく、こうして次々に幼稚園が新設されることは喜ばしい。他の地区でも是非こうありたい。

			ド
			イ
平			ツ
井			
	信		便
		義	り

○ お買物

皆さんのお家ではパンが欲しい、サイダーが飲みたいと思うと、チリチリンと電話をかけるさえすれば、「へい毎度ありがとう」といって小僧さんが持ってきてくれるでしょう。又、好きな時間にどこのお店にいつでも大抵「いらっしやい」「何、おいりようですか」と迎えてくれますね。ところが僕のいるドイツではそうはいきません。御用聞きは殆んどありません。何しろお家のお室までいって御用をきくまでに三つも鍵をあけてもらわなければならぬのですから。僕が朝食食べるパンは届けてはくれますが、門の脇のポストの中に入れてあるのです。お買物の時間も、朝八時か九時頃から一時までが一と区切り。ですから一時半頃バッテリーか陽話を買おうとお店の戸を押してもあかないお店が沢山あります。

経営および研究活動

経費の面から見ると、保育料が、公立は四百円程度、私立が五百円程度で、これに、P・T・A会費、材料費その他を加え、最低月五百円から最高七百五十円程度を徴収している。私立の場合は勿論これで職員の手給はじめ一切の経費がまかなわれる。公立の場合、給与が市町村から出るほか若干の予算はあるが、これだけでは少いので、P・T・Aからも、園経営の費用を出しているのが現状である。松江市の場合、私立幼稚園に対して市から若干の助成金が出る。「幼稚園がもうけがいいか、風呂屋がもうけがいいか」と、某大都市で言われているとか、そんなことを聞いたことがあるが、島根県の場合、それはあてはまらない。どの幼稚園もぎりぎりの苦しいやりくりで、やっと切り抜けている。私立といっても、設立者(役員)は皆無給だし、全部が地域の幼児教育のためのサーヴィスで、だから私立も公立も保護者からの納金はあまり違わない。園長は、ごく特殊な幼稚園を除いては、国・公・私立共、その校区の小学校長の兼務となっており、無給である。専任園長は、県下に一人しかない。従って、園の実際の運営は、

主任教諭が行っている。経済的に苦しいので主任でも一組担当している場合が多く、事務職員を置いてある幼稚園は少ない。又、養護教諭を置いてある幼稚園は皆無である。従って、各園共かなり忙しい。

全体に一年保育が最も多く、中には一年保育だけの幼稚園もあるが、ごく一部に、三年保育を行っているところもある。

研究活動はかなり盛んで、島根県幼稚園教育研究会(国・公・私立を含む)にすべてが結集され、一年一回以上、県内のほとんどの幼稚園教員が集る研究会を開くほか、全県を五つのブロックに分け、ブロック毎の共同研究が行われる。松江市では、松江市幼稚園連盟の組織があり、毎月一回以上全員の研究会を行うほか、研究発表・保育公開などを、相互に、ひんばんに行っている。講習会なども毎年数回開催されるが、特色のあるのは、毎年五月に開催される「幼児教育振興大会」で、これは、第一日は全県下の幼稚園教員を対象とし、第二日は、このほかに全松江市内の母親を加え、講演会を開く。この大会は、有効な啓蒙運動の機会になっている。

(島根大学教育学部付属幼稚園)

一時から三時まででは大人もお昼寝、お店もお昼寝です。そして、三時からきっちり七時までが次の時間です。七時をすぎると、せわしうに一日のお勘定を計算して、戸に鍵をかけたままです。お店の中にはあかあかと電気がついていて、「あの棚にはチーズがあるぞ」と見えていても、鍵がかかっているし、人も奥の方に引込んでしまつています。ですからお買物が出来ません。それに、日曜日はお店も全くお休みです。何にも買えません。ですから土曜日にすっかりお買物をすませてもらわなくてはならないのです。その土曜日五時までです。うっかり本を読みすぎて慌ててパンを買いにいきましたら戸は押せどもありません。とうとう日曜の朝はバターをなめコーヒを飲んだだけのことがあります。日曜日は新聞もきません。手紙も配達してくれません。家でお寝坊をするか、散歩をするか、教会にいくかです。お買物の点では日本はずい分便利です。しかし、そのためにお店の人がからだを休めることが少く、家中で楽しいお話し合いの時間も少く、こころのゆとりということでは、ずい分損をしているのではないかと思います。(十一月三日)